



スター・ウィーク ~星空に親しむ週間~ 8月1日~8月7日

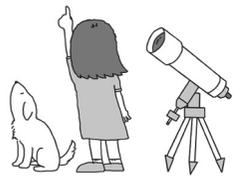
2025年のキャッチコピー ~星空のめぐすいー滴 あなたにも~ 岩手県の堰合さん作

★まずは、アイテムを用意しよう★
星はいつでも見られるけれど、ちょっとしたアイテムがあると、より楽しく星を見ることができます。

- 夜は暗い→懐中電灯
(赤いセロファンをはっておこう)
- 大地に寝転がって星を見よう→マット
(ただし、安全な場所に寝転がってね)
- 夏でも夜は冷えるよ→あたたかい服
- その他→虫よけ、時計、などなど

◆望遠鏡や双眼鏡はなくてもだいじょうぶ！
探検マップには、おすすめポイントをどんな方法で見たらいいのか、アイコンをつけています。

- 自分の目で見てみよう
- 双眼鏡で見ると
- おもしろいもの
- 望遠鏡があると見える



主催:スター・ウィーク実行委員会
後援:自然科学研究機構 国立天文台
公益財団法人 天文学振興財団
協力:PAONaV!準備会議、日本フナタリウム協議会
日本公開天文台協会
<http://starweek.jp/>
~2025年版~

Aug.
1st-7th

施設・団体名を入れて
イベントなどお配り下さい
(Copyright 1995-2025, StarWeek Project)

スター・ウィークの
テーマソングは、
フナーソング、
フナーソングの
「COSMOS」
という曲です。
彼らの歌声と共に
美しい星空を
楽しんでください！
★フナーソングは
「COSMOS」
by フナーソング

スター・ウィークの
子ども大人も、だれもが気軽に
星空を見上げてほしい、
そんな想いから始まった
星空に親しむ週間です。

★スター・ウィークとは...
バード・ウィーク(愛鳥週間)があるのなら、
「スター・ウィーク」があってもいいな...
子ども大人も、だれもが気軽に
星空を見上げてほしい、
そんな想いから始まった
星空に親しむ週間です。

★スター・ウィークは今年で30周年！
1995年からはじまったスター・ウィークは、今年・2025年で30周年となりました。
みなさんが、気軽に星空を見上げるきっかけになることができれば、とてもうれしいです。

★伝統的七夕を楽しもう★
7月7日の七夕は梅雨のくもり空で、なかなか星が見えませんか。実は、江戸時代まで使われていたカレンダーは、現在のものとは仕組みがちがいで、日付も1か月ほどずれがあります。
昔のカレンダーでの7月7日(伝統的七夕)は、2025年は8月29日。月遅れの七夕(8月7日)も入れると、あと2回七夕を楽しめます。
部屋や身の回りの明かりを消して、普段より暗くなった夜空で、昔の人たちの気持ちになって七夕を楽しんでみませんか？

★2025年も月の変化を楽しもう！
今年のスター・ウィークの時期は、8月1日の上弦からはじまって、8月9日の満月に向けて月が満ちて、行く様子が楽しめます。
月が沈んだ後は、星空もぜひご覧ください。



探検マップその1 【東の空】

夏の大きな三角
ベガ・アルタイル・デネブの3つの1等星でできるおおきな三角形です

デネブがしっぽで、アルビレオがくちばしです。白鳥のすがたがわかるかな？

デネブ(はくちょう座)

ベガ(こと座)
頭の上に輝く1等星で七夕の織姫星です

アルビレオ(はくちょう座)
望遠鏡で見ると、青と黄色の星が2つならんで光っています

アルタイル(わし座)
七夕の彦星です

天の川
月明かりの少ないころ、夜空の暗いところに行くとぼんやり見えます。双眼鏡で見ると、たくさんの星が見えます。

カシオペヤ座
カシオペヤ座を目印に北極星を探せます

北極星の方向

月のこよみ
8月1日/上弦 8月9日/満月
8月16日/下弦 8月23日/新月

探検マップその2 【南の空】

毎年8月中旬ころは、流れ星がよく見られます。「ヘルセウア座流星群(ひるせいはくせん)」と呼ばれます。
2025年は、12日から13日に日付が変わってからの明け方まで流れ星に出会えるチャンスです。月明かりが気になるころですが、月が目に入りにくい方角を見ながら流れ星に出会えるのを楽しみにしてみてください。
流れ星は、空のどの方角にも現れるので、のんびり待つとみてみてください。

さそりの胸の部分で、まるで心臓のよう赤く輝く1等星です。「火星の敵」という意味があります。

さそり座(さそり座)

夜空の暗いところは、天の川が一番よく見えるところ。双眼鏡で見ると、天の川の中(星団)や星の集まり(星団)やぼんやりとした星雲などを見ることが出来ます。